

I 「人の子が来たのが、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためであるのと同じです」 20：28。

1. 神の栄、栄光を捨てて、私たちを救う為に、へりくだり、人となられた。感謝します。
2. 偉大な神である御子なるイエスが、仕える者となられた。神は、人間を造られた時、罪がなく、アダムとエバは、互いに愛し合い、仕え合う者だった。しかし、人が神に背き、罪が人の心に入った時から、人は、互いに愛し合い、仕え合う者ではなく、互いに支配し合う者となってしまった。

神は、その墮落した人間を新しく再創造するために、仕える者となられた。仕える人の特徴は、愛を持って真実を語る事と愛を持って相手の意見、願いを聞く事のバランスのある事である。主を間において、互いに語り、互いに聴き、主の御心を求めて行くのである。

「異邦人の支配者たちは彼らを支配し、偉い人たちは彼らの上に権力をふるいます。あなたがたの間では、そうではありません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい」 20：26。「それぞれが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい」 I ペテロ4：10。能力があっても、へりくだり、仕える心のない人を神は、用いられない。神の栄光の為、御名があがめられるために、へりくだり、仕える心を持って、神から与えられた能力を用いる人は幸いです。神と人に仕える人は、「良くてきましたね」と言われた時、「いやいや私なんか」と自己卑下せず（心の中では、高慢になる誘惑＝神のおかげを自分の力と勘違いする）、素直に「ありがとうございます。励まされます。でも、それは、神が力を与えて下さったからなんです。神の御名を崇めます。また、皆さんが祈って下さったおかげです」と心から神と人に感謝するのです。それが神の喜ばれる姿です。

3. 主は、私達の罪の贖い、償いの為に、クリスマスに、この世に来て下さり、私達の罪を背負い、十字架で死なれ、三日目に復活し、どんなにつらい時も、今、私達と共にいて下さるインマヌエル神。

※教会福音讃美歌100「栄を捨てて」

1. 「栄を捨てて、この世に来られた。すべてを捨てて、貧しくなられた。
2. 涙の園で、御父に祈って、私の罪をその身に負われた。
3. 御手と御足の御傷をあおげば、その手は天を造られた主の手。
4. 仕えることを、教えて下さい。御旨のために用いてください」
(くりかえし)「王なる主イエスが、しもべとなられた。私もすべてを献げ、あなたに仕える」

II 「わたしは羊の門です。…わたしは門です。だれでも、わたしを通過して入るなら、救われます。

また安らかに出入りし、牧草を見つけます。…わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。わたしは、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。牧者でなく、羊の所有者でない雇人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして、逃げて行きます。それで、狼

は羊を奪い、また散らすのです。それは、彼が雇人であって、羊のことを心にかけていないからです。わたしは良い牧者です。わたしはわたしのものを知っています。また、わたしのものは、わたしを知っています」ヨハネ10：7-14。

1. 「わたしは門です」：9。主イエスは、救いの門。主を信じる者は、救い＝神を知り続ける神との辛い交わりという永遠の命に迎え入れられる。
2. 「牧草を見つけます」：9。私達にとっての霊的な牧草は、主の御言葉、聖書の言葉、いのちの御言葉、私達の魂を養い育てる御言葉。「生まれただけの乳の飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです」Iペテロ2：2。
3. 主が、クリスマスに、この世に来られたのは、霊的な羊である私達が、主を信じて、新しい命、試練の中でも主から目を離さず、主から励まし、希望、力をいただける命、地上でも三位一体の神と交わり、地上での生涯を終えても、神の時に復活し、永遠に神と共に生きる事が出来る命を私達に与える為に来られた。また、命の源である神との交わり、祈り、御言葉を味わう事を深めると、ますます神からの命、人生、力、愛を豊かに持つ事が出来る。：10
4. 良い牧者である主イエスは、私達の罪の為に十字架で死に、ご自身の命を捨てて下さる。その代わりに、自分の罪の為に捨てられて当然の私達が、捨てられず、愛され救われ、私達を愛で抱いて下さる。：11
5. 主は、私達が試練に会い、つらい時、私達を置き去りにしたりされない。いつも共にいて、私達の辛い気持ちを理解し、支えて下さる。：12
6. 主は、いつも私達の事を、心にかけていてくださる。：13
7. 主は、良い牧者で、私達の涙のわけも、悩みも苦しみも喜びもすべて知っていて下さる。私達が自分で自分を理解するよりも、私達を完全に理解して、すべてを知っていて下さる。主は私達のことを知り、私達も主ご自身を深く知る交わりは、この世で最も素晴らしい宝物です。：14。主の御名を崇め、主に何でも正直に祈りましょう。主は、主を崇め感謝する事と正直に辛さを打ち明け祈り願う事の両方を喜ばれる。